

多機関研究用

**【研究課題名】大学医学部カリキュラムの課題に関する医学生の視点：多施設横断研究**

**1. 研究の対象**

2026年3月1日から2026年6月30日までの間に佐賀大学医学部を含む全国8大学の医学部医学科の在校生を対象に、質問紙法を用いた調査を実施します。同8大学は、在校生が日本医学教育学会学生ワーキンググループに所属している大学のうち、本研究への参加を希望した大学として選定されました。除外基準は、本研究への参加同意が得られなかった者、本研究への参加を撤回した者としします。

**2. 研究目的・方法・期間**

**・研究目的、方法**

医学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）では、医学生が修得すべき資質・能力として、「総合的に患者・生活者をみる姿勢」が新たに追加されました。これにより、医学教育では、臨床現場での実践的スキルに加え、患者を生活者として捉え、心理社会的背景を踏まえたニーズ対応能力の涵養が求められるようになっていきます。これらの資質や能力を修得するためには、一般教養・基礎医学・臨床医学での学習を臨床現場での経験と結びつけ、臨床実習では診療チームの一員として従事する診療参加型実習を実施することが重要です。しかしながら、全国15大学の医学科生28名による協議の中で、その多くが現行の臨床実習前のカリキュラムは座学偏重であり実習機会が不足していると感じていることが明らかとなりました。また、臨床実習においても診療に参加する機会が不足していると感じられています。実際に、全国の医学生を対象にした調査でも、診療参加型臨床実習が十分に実施できていると感じている医学科生は20%程度に過ぎないと報告されております。一方で、佐賀大学医学部の医学科生の70%が、「診療参加型臨床実習が十分に実施されている」と感じており、診療参加型臨床実習の実施程度は大学間で異なると考えられます。これらの背景を踏まえ、全ての医学科生が、求められる資質・能力を修得できるようになるためには、現在の各大学のカリキュラムの課題と優れた点を明らかにすることが重要ですが、我々の知る限り、同様の報告はこれまでに報告されていません。

本研究では、令和4年度改訂版医学教育モデル・コア・カリキュラムを基に、学生視点で現行のカリキュラムを評価し、優れている点と課題を明らかにすることを目的とします。本研究により、「総合的に患者・生活者をみる姿勢」を修得する上での課題の抽出が可能になり、学習者主体のカリキュラム構築につながる可能性があります。

・研究期間 研究実施許可日 ～ 西暦 2030年3月31日

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

情報)

①対象者背景（自由記載）：所属大学名・年齢・メールアドレス

②対象者背景（カテゴリー）：性別（生物学的性別）・学年・回答時の臨床実習経験の有無

③カリキュラムに関する評価（リッカート5段階）：

- ・大学のカリキュラムについて疑問を持ったことはあるか？（1：まったくない、5：非常によくある）
- ・自身の大学のカリキュラムの意図や背景をどの程度理解しているか？（1：ほとんど知らない、5：非常によく知っている）
- ・学生の意見がカリキュラムに反映されていると感じるか？（1：全く感じない、5：非常に感じる）
- ・現在の座学（講義）のコマ数についてどう感じるか？（1：少なすぎる、5：多すぎる）
- ・学生が主体的に参加できる実習の機会はどれくらいか？（1：ほぼない、5：十分ある）
- ・現在の講義や実習を経て、患者さんの一生（小児期～終末期）をどの程度イメージできるようになっているか？（1：全くイメージできない、5：非常によくイメージできる）
- ・これまでの講義や実習で、患者さんの生活の様子を考える機会はどの程度ありましたか？（1：全くなかった、5：非常に多かった）
- ・現在のカリキュラムで、患者を生活者として捉える力がどの程度養われていると思いますか？（1：全く養われていない、5：非常に良く養われている）

④カリキュラムに関する評価（自由記載）：

- ・現在の講義で「特に効果的だった」と感じる授業形式や工夫
- ・自大学ならではのカリキュラムの特徴(地域性、大学の文化、教員の特徴など)
- ・「力がついた」と実感したカリキュラム（講義・実習など）
- ・他者に勧めたい自大学のカリキュラム
- ・そのカリキュラムが実際に成果・実感に結びついたと感じた例
- ・過剰または不要だと感じるカリキュラム
- ・不十分だと感じる、またはもっと充実させてほしいカリキュラム
- ・カリキュラム改善のために大学に求める取り組み
- ・患者を生活者として捉える力を十分に修得できるようにするために、どのようなカリキュラムや取り組みがあればよいと思うか

④学生が疑問を感じる分野（複数選択可）：疑問を感じたことはない、一般教養、基礎医学、

研究室配属、臨床医学（座学）、CBT、臨床実習前 OSCE（試験）、臨床実習、選択実習、臨床実習後 OSCE（試験）、卒業試験

- ⑤**学生が疑問を感じる点（複数選択可）**：疑問を感じたことはない、講義形式、講義内容、講義時間、講義日数、各講義のコマ数の配分、試験内容、試験形式、評価方法、臨床実習の質、臨床実習期間、臨床実習先の診療科や施設の種類、その他
- ⑥**学生の意見を取り入れる仕組みや機会（複数選択可）**：カリキュラム委員会、教育評価委員会、教育委員会、授業後アンケート、教員との対話、その他
- ⑦**学生が期待する大学の役割（複数選択可）**：医学的知識の修得、手技の技術力の修得、人間性・コミュニケーション力の育成、プロフェッショナリズムの育成、問題解決能力の育成、キャリア支援、研究の機会、地域とのつながり、その他  
（試料）なし

#### 【この研究の試料・情報の取扱い】

倫理委員会の承認を受けた研究計画書に従い、収集した情報等には個人を識別できないよう処理を行い、参加者の氏名や住所などが特定できないよう安全管理措置を講じたうえで取り扱っています。このお知らせは研究実施許可日より2030年3月31日までの間、研究対象となる方への公表を目的に、佐賀大学医学部ホームページ（<https://www.med.saga-u.ac.jp/>）で掲載しているものです。

なお、この研究内容は佐賀大学医学部倫理委員会での審査・承認を受け実施されています。

#### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等については、下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報等が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としますので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも成績等に不利益は生じません。

《照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先》

住 所：〒930-0194 富山県富山市杉谷 2630 番地

富山大学 学術研究部医学系 医学教育学講座

担 当 者：富山大学 学術研究部医学系 医学教育学講座 特命助教 武島 健人

メー ル：m09063kt@med.u-toyama.ac.jp

《研究責任者》

佐賀大学医学部附属地域医療科学教育研究センター 准教授 山下 駿